あかるさかおるのスケッチブック No.15

バックナンバーは、町ホームページでまとめて読むことができます▶

“遠くの誰かを思う力”

春の訪れとともに、酒田港には外国のクルーズ船が寄港し、庄内にも海外からのお客さまが増えてきます。ガイドとして私がいつも心がけているのは、行く先々で「人」を紹介すること。美味しいランチを作ってくれた料理人さん、美術館で説明してくれた学芸員さん、そして案内役の私。ここで出会った素敵なモノやコトと一緒に、人の顔も覚えて帰ってほしいなと思っています。もう二度と訪れないかもしれない異国でも、「あのときのあの人」が心に浮かべば、その国はもう遠いどこかじゃなくなるから。もし日本で何かが起きたとき、思い出す顔があれば、それだけでそのニュースは他人事ではなくなり、関心を寄せるきっかけになります。

きっとそれは、誰にでもある感覚です。ロシアやウクライナに友人がいれば、あの戦争も他人事とは思えないでしょうし、パレスチナの知人が思い浮かべば、ガザの惨状も遠い話では済まされなくなるのではないでしょうか。

「自国ファースト」という言葉が自国の利益を守る魔法のように使われたり、スマホのアルゴリズムが知らぬ間に私たちの世界を狭めたり…。まるで見えない大きな力が私たちを分断させようと躍起になっているように思える今日、私たちにできるのは、立場の違う人ともつながること。わからなくても知ろうと心がけること。ほんの少しの「関心」や「つながり」が、世界を自分事として捉えるきっかけになり、見える景色を変えてくれるかもしれません。

遠くの誰かを思う力こそが、世界をつなぐ力だと信じています。

【このコラムを書いている人】

菅原（すがわら） 明香（さやか）（あかるさかおる）

ナリワイ ALLIANCE（アライアンス） 代表

通訳ガイドやアート活動、コミュニティづくりなども行う複業アーティスト。三川町在住、2児の母。